

(1) 地域の課題 ***八戸の新たな顔となるまちづくり**

- ・訪れる人が最初に八戸を実感する場となるので、東西駅前の景観を八戸の顔として演出することが必要です。

ゲート性を活かした広域的な機能の集積、にぎわいと交流の場の創造

- ・広域的な都市機能の集積を図り、様々な交流活動が展開されるにぎわいにあふれた場を創造することが必要です。

駅東地区の広域的な機能の集積

- ・八戸の玄関である駅東地区での広域的な機能の集積、にぎわいと交流の場の創造が必要です。

駅西地区の土地区画整理事業の推進

- ・八戸駅西土地区画整理事業を推進し、広域的なゲートになる駅前にふさわしい土地の有効利用を実現することが必要です。

新幹線駅に対応した広域交通ターミナル機能の充実

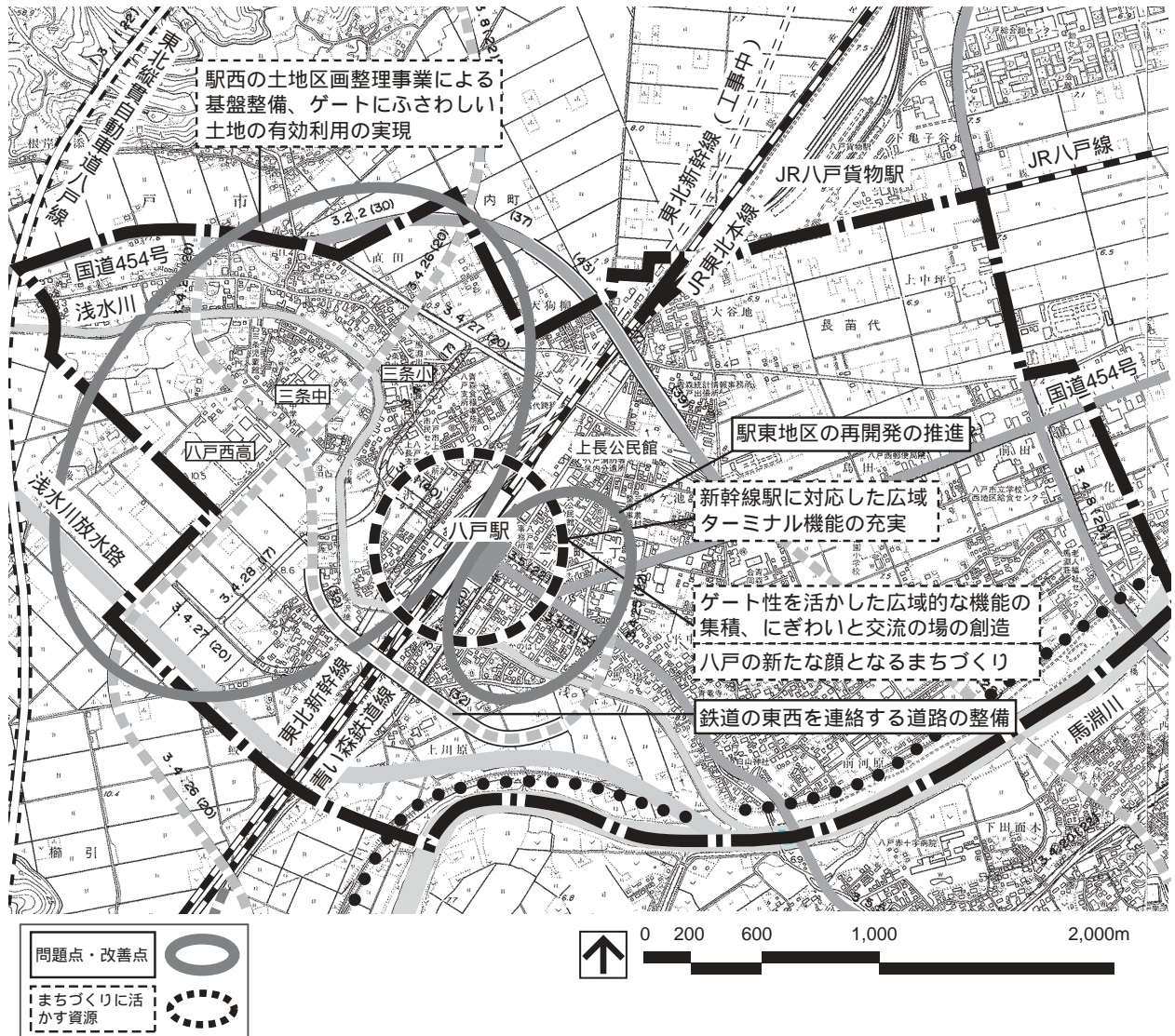
- ・東北新幹線「はやて」が乗り入れる交通結節点として、八戸駅の広域的な交通ターミナル機能の充実が必要です。

鉄道の東西を連絡する道路の整備

- ・周辺市町村からの広域的なアクセスを強化するとともに、駅西地区の利便性を確保するため、東西連絡道路の整備の促進が必要です。



課題図



(2) まちづくりの目標

1) 地域のめざすべき方向

えがおでむかえる八戸の玄関口となるまちをめざす

- ・ 鉄道やバス交通などの広域的な交通ターミナルとしての機能を強化します。
- ・ 広域的なゲート・交流の場としての役割を果たすため、情報発信機能、体験型娯楽機能、広域的なビジネス機能などの立地をすすめます。
- ・ 国際化に対応し、外国語による案内表示を積極的に整備します。

新幹線開業を契機として八戸の新しい顔づくりをめざす

- ・ 交通ターミナル機能の充実を図りながら、八戸の新しい顔となるまちをつくります。

2) 将来像

市民と訪れる人が行き交い、つどい、にぎわうゲートタウン

八戸駅周辺では、出かける市民や訪れる人などたくさんの方が行き交います。全国とのゲート（玄関口）機能を最大限に活かしてまちづくりをすすめます。通過するだけでなく、たくさんの人を呼び込み、人々が集い交流する、にぎわいと活気に満ちたまちをつくります。



(3) まちづくりの方針

1) 土地利用・市街地整備の方針

- ・ 駅東地区では、機能の更新、低・未利用地の高度利用を図り、商業・業務施設、宿泊・交流施設、会議・展示施設、文化施設、広域行政施設などの集積を図ります。
- ・ 駅西地区では、広域集客施設の整備（煎餅づくりなどの体験施設、スポーツ・レクリエーション施設など）、商業・業務施設の集積を図ります。
- ・ 新幹線乗換客の利用も想定した多様な機能の集積を図り、八戸駅東西駅前において広域ゲート・交流拠点の形成を図ります。
- ・ 駅西地区では、残されている緑の保全を図りつつ、周辺の田園風景と調和のとれた街並みと水準の高い快適な居住環境の形成を図ります。
- ・ 尻内地区の逆線引き区域*は、一定規模以上の計画的な開発が具体化した時、見直しを検討します。

2) 道路・交通体系整備の方針

- ・ 東北縦貫自動車道八戸IC、八戸北ICと結ぶ都市計画道路3・3・8号白銀市川環状線の整備をすすめます。
- ・ 都市計画道路3・1・1号八戸駅西中央通り線は、沿道景観の誘導を図りながら、駅西地区のシンボル道路として整備をすすめます。
- ・ 駅東地区への円滑なアクセス*を実現するため、都市計画道路3・4・1号一番町沢田線の上長公民館方向への延伸整備をすすめます。
- ・ 中心市街地や市内の拠点と結ぶバスサービスの充実を図ります。
- ・ 十和田湖などの観光地と結ぶ広域ターミナル機能や、市内バス網、パーク&ライド*用駐車場など、広域交通結節点としての施設整備を図ります。



3) 公園緑地・水辺環境整備の方針

- ・ 駅西地区の浅水川では自然型護岸のせせらぎ空間を創出し、人が水にふれることができる親水空間を整備するとともに、隣接する近隣公園と一体となった集いにぎわう拠点の整備をすすめます。
- ・ 八戸駅西地区に残されている既存樹林の保全など、緑豊かな環境の維持に配慮します。
- ・ 浅水川沿いの歩行者専用道路や河川堤防を活用し、水辺に親しみながら散策できる水とみどりのネットワークを形成します。

4) 景観形成の方針

- ・ 東西駅前では、景観誘導指針の策定などにより、八戸の顔となる美しい都市景観の計画的な誘導を図ります。
- ・ 東西駅前広場などの公共空間をシンボリックにデザインするとともに、駅前につながる道路の沿道では調和のとれた魅力的な街並み形成を誘導します。



八戸駅周辺地域の構想図

